

## 山響の決算分析と今後の見通し

R4.2.20 検討チーム資料

### 1 決算状況及び収支試算

事業区分		2013-2019 平均	2022以降(試算)	
定期演奏会	収入	2,740,531	<b>2,311,960</b>	補助金廃止を反映
	支出	3,128,181	3,128,181	練習会場費を含む
	差額	△ 387,650	<b>△ 816,221</b>	
巡回芸術劇場	収入	1,200,000	1,200,000	2日4公演
	支出	774,220	774,220	
	差額	425,780	425,780	
サマーコンサート	収入	245,714	245,714	今後見直しの可能性あり
	支出	221,608	221,608	
	差額	24,106	24,106	
依頼演奏他	収入	917,861	<b>545,498</b>	オケクリ廃止を反映
	支出	599,370	<b>463,656</b>	
	差額	318,491	<b>81,842</b>	
管理運営費	収入	1,023,710	1,023,710	(四捨五入のため合計は合わない)
	支出	1,312,769	1,312,769	
	差額	△ 289,060	△ 289,060	
合計	収入	6,127,816	<b>5,326,882</b>	
	支出	6,036,149	<b>5,900,434</b>	
	差額	91,667	<b>△ 573,552</b>	

注 2020年及び2021年は、コロナ禍での特異性があるため除外

### 2 主な財源と経費の規模 (2013~2019の決算状況を元に整理)

団費	12,000円×約70人=約84万円
定演団員ノルマ	5,000円×約70人=約35万円 (約280枚)
山口銀行委託チケット	1,500円×300枚=45万円 ※他に助成金20万円+TV放送料
巡回芸術劇場	収入120万円 - 支出80万円 ⇨ 収益約40万円
(オーケストラ楽器クリニック)	収入約60万円 - 支出約30万円 ⇨ 収益約30万円
指揮者旅費謝金	80万円~100万円 (練習を含む)
ソリスト旅費謝金	35万円~73万円 (練習を含む)
トレーナー旅費謝金	44万円~76万円
本番会場費	25万円~40万円 ※山口市民会館とスターピアくだまつは負担なし
練習会場費	50万円
楽器運搬保管費	60万円 (三共ピアノ)

### 3 分析

○過去7回の定演(2013-2019)は、平均40万円弱の赤字であった。

- ・なお、会場使用料ゼロの年が7回中4回(山口、下松)
- ・山響は昔から、巡回や依頼演奏の黒字で、定演と管理運営費の赤字を補填する構造

○今後は、定演で毎年80万円程度の赤字、団の会計全体では毎年60万円弱の赤字が見込まれる。赤字構造を解消するためには、少なくとも年60万円の財源を確保する必要がある。

### 4 山響を取り巻く環境の変化等

- ・1985年以降、定演に毎年プロ指揮者を招聘しているが、入場料は当時から1,500円
- ・1990年代頃は依頼演奏が多く、団費なしで運営してきた(当時の巡回は4日8公演)。
- ・2000年代以降、トレーナーの招聘など、活動の充実強化のため団費の徴収を始めた。
- ・リーマンショックや大震災を経た2010年代以降は、依頼演奏が大きく減少している。
- ・2021年～2030年の10年で、山響の預貯金は枯渇する見込み(※)。
- ・将来的に、巡回芸術劇場の更なる削減の可能性も想定される。
- ・コロナ禍が終息すれば、芸術村廃止問題の再燃が想定される。
- ・少子化と団員の高齢化で、団員の実人数が増加する見込みは乏しい。

#### ※ 山響の財産 (令和3年(2021年)4月1日現在)

繰越残高 1,042,208 円

基金残高 4,484,595 円

計 5,526,803 円

→  $5,526,803 \text{ 円} \div 573,552 \text{ 円/年} = 9.64 \text{ 年} \div \underline{10 \text{ 年}}$